

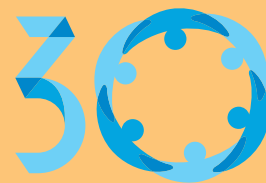
令和6年度(2024年度)
1.17防災未来賞

20th

ほむかい甲子園

学び 守る 命と営み

記録誌



阪神・淡路大震災30年
1995 1.17

- 主 催 兵庫県、毎日新聞社、(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構(阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター)
- 後 援 内閣府、総務省消防庁、文部科学省、国土交通省、兵庫県教育委員会、神戸市、神戸市教育委員会、
関西広域連合、ひょうご安全の日推進県民会議
- 協 賛 (独)都市再生機構
- 事務局 (特非)さくらネット



兵庫県知事

齋藤 元彦

阪神・淡路大震災から 30 年が経ちました。災害の教訓は 30 年で風化するといわれます。震災を経験していない、若い世代のみなさんに、経験や教訓のバトンをしっかりと繋いでいくことが、私たちの責務だと考えています。そのような思いから、兵庫県では「繋ぐ」という言葉を震災 30 年事業の大切なコンセプトのひとつに位置づけました。

この 1.17 防災未来賞「ぼうさい甲子園」も今回 20 回目の節目を迎えました。全国 108 校・団体からご応募いただき、若いみなさんの防災意識のひろがりを感じています。東日本、熊本、能登などの大きな災害を経験された地域に加え、これから災害を経験するかもしれない地域の児童・生徒のみなさんが、防災を“じぶんごと”と考え、日頃から活動されていることをとても頼もしく思います。ご指導いただいた教職員の皆様や地域の皆様にも心より感謝申し上げます。

災害はいつどこで起こるかわかりません。「ぼうさい甲子園」に参加されたみなさんには、これからもそれぞれの地域や学校で、防災活動のリーダーとして活躍されることを期待しています。

私たちも引き続きこの「ぼうさい甲子園」の活動を通じて、未来を担う子どもたちに災害への備えの大切さを伝えていくことで、安全で安心な社会づくりを推進してまいります。

主催者あいさつ



毎日新聞大阪本社
編集局長

木戸 哲

2023 年の表彰式・発表会から 10 日も経たない 24 年の元日、能登半島で最大震度 7 という巨大地震が発生し、大惨事となりました。奥能登は都市機能が完全に失われたうえ、道路網が寸断された結果、文字通り陸の孤島となってしまいました。私もしばらくしてから被災地を訪れましたが、過疎化と高齢化が進む集落の復興がいかに難しいか目の当たりにするとともに、災害が起きた時に被災者、子どもや高齢者を孤立させない「共助」の重要性を再認識させられました。

「ぼうさい甲子園」は 20 回目を迎えることができました。今回は 5 部門に 108 件の応募をいただきましたが、それぞれに地域の特性を踏まえた創意工夫が感じられ、甲乙つけがたい取り組みばかりでした。地域との連携や共助に重点を置いた活動が多く、心強い限りですが、グランプリを受賞した宮城県岩沼市立玉浦小学校のように、遠く離れた学校と交流をしている様子がうかがえる例もありました。

言うまでもなく、災害はいつどこで起きるか分かりませんし、防災の取り組みが地域を越えて広がっていくことも大切なことだと気付かされました。

25 年は阪神・淡路大震災から 30 年となります。節目の年ではありますが、大勢の命が奪われた悲しみと、震災を通じて得られた教訓は、震災を知らない世代の人たちにも、これからもずっと伝え続け、もしどこかで災害が起きてしまった時に、1 人でも多くの命を救えることにつなげていかなければなりません。皆様の取り組みを通じて日本全国の防災意識が向上するよう、主催者として、これからも「ぼうさい甲子園」の充実に努めていきたいと思っています。

「ぼうさい甲子園」を支えてくださっている全ての皆様に感謝の言葉を申し上げます。



阪神・淡路大震災記念
人と防災未来
センター長

河田 恵昭

今年度のほうさい甲子園は、北海道から熊本県までの 33 都道府県から、昨年度を上回る 108 校・団体の応募がありました。

今年を振り返ってみますと、元旦に発生した能登半島地震では、建物が倒壊し、多くの人々に甚大な被害をもたらしました。8 月には日向灘を震源とする地震の発生に伴い「南海トラフ地震臨時情報」が発表されました。能登半島をはじめ各地で豪雨による被害が頻発するなど、災害に対する危機意識がさらに高まった年でもありました。

このように社会や環境が変わりゆく中で、防災の活動に主体的に取り組んでこられた児童・生徒・学生諸君とその保護者はもとより、防災教育の重要性を認識され、教育活動を進められてこられた先生方や学校関係者、地域の皆さまのご苦勞は、いかばかりかと存じます。

そうした中、その熱意と成果を称える表彰式及び発表会を、ここ兵庫県で行えることを大変うれしく思っています。

来月には阪神・淡路大震災から 30 年。今回、この「ほうさい甲子園」も 20 回の節目を迎えることとなりました。皆さま方に、本活動の趣旨をご理解いただき、防災・減災の輪がさらに広がっていくことを願っています。

講 評

各賞の審査にあたっては、「地域性」「独創性」「自主性」「継続性」の 4 つの観点を基準に、選考委員会で審査し、決定しました。防災教育や防災活動の取り組みはいずれも素晴らしいものばかりで、これらの中から特に優れた 49 校・団体を表彰することとなりました。

「グランプリ」は、「小学生の部」の「宮城県岩沼市立玉浦小学校」です。東日本大震災で岩沼市は死者 149 名、全戸停電・断水という大きな被害を受けました。総合的な学習の時間に 3 年生から 6 年生までが、学年ごとにテーマを決めて、玉浦地区が復興していくための未来図を描くという学習を進めています。また、姉妹都市の高知県南国市と防災交流を行うなど、活動は多彩です。昨年度の UR レジリエンス賞受賞に続き、今年は、近年、高い水準での選考が続く小学生部門から、選考委員満場の一致により見事グランプリに輝きました。

ほうさい大賞「中学生の部」は、「大阪府泉南市立西信達中学校」です。大阪湾に面し、高潮や津波・液状化等の被害が想定される地域に立地しています。1 小学校 1 中学校で構成されているという特性をいかした学びが家庭や小学校にもよい形で広がっています。令和 5 年度には、「防災教育チャレンジプラン」で「防災教育優秀賞」を受賞。今回、ほうさい甲子園は初応募でしたが、2017 年から続く防災教育活動が評価され、見事ほうさい大賞に選ばれました。

ほうさい大賞「高校生の部」は、「和歌山県立熊野高等学校」です。最も応募校数が多い高校生部門で、2016 年の初応募以来、グランプリを含む上位賞を獲得し続けています。

南海トラフ巨大地震が 30 年以内に発生する確率は 70 ～ 80%、和歌山県の死者は 8 万人と予想されています。1 人でも多くの命を救う活動を日々模索している姿が認められ、今年度新設した「大震災対策賞」も併せて受賞されています。

ほうさい大賞「大学生の部」は、「静岡大学 教育学部 藤

井基貴研究室」です。これまでにほうさい大賞、優秀賞を受賞されています。自分たちが主役になるだけでなく、高校生支援などを通して防災教育が広がる工夫がなされています。本年の能登半島地震を受けて、研究室 OB らと共に「ユース災害ボランティア基金」を設立し、のべ 200 名以上の学生ボランティアを被災地に送り届けました。

ほうさい大賞「特別支援学校・団体の部」は、「千葉県立香取特別支援学校」です。利根川流域に位置する千葉県神崎町にあるこちらの学校は、洪水ハザードマップで浸水想定区域に入っており、垂直避難訓練などを実施してこれしました。知的障害教育における防災安全教育については、教科指導における実践例が少なく、この学校でもこれまでには防災に関する行事や授業を単発で行っていましたが、地域と連携し、「安全・安心に過ごせる力の育成」をテーマに、小・中・高 12 年間の系統的な指導を実践されています。児童生徒が主体的に命を守るように数々の取り組みを積み重ねてきたことが高く評価され、見事ほうさい大賞に選ばれました。

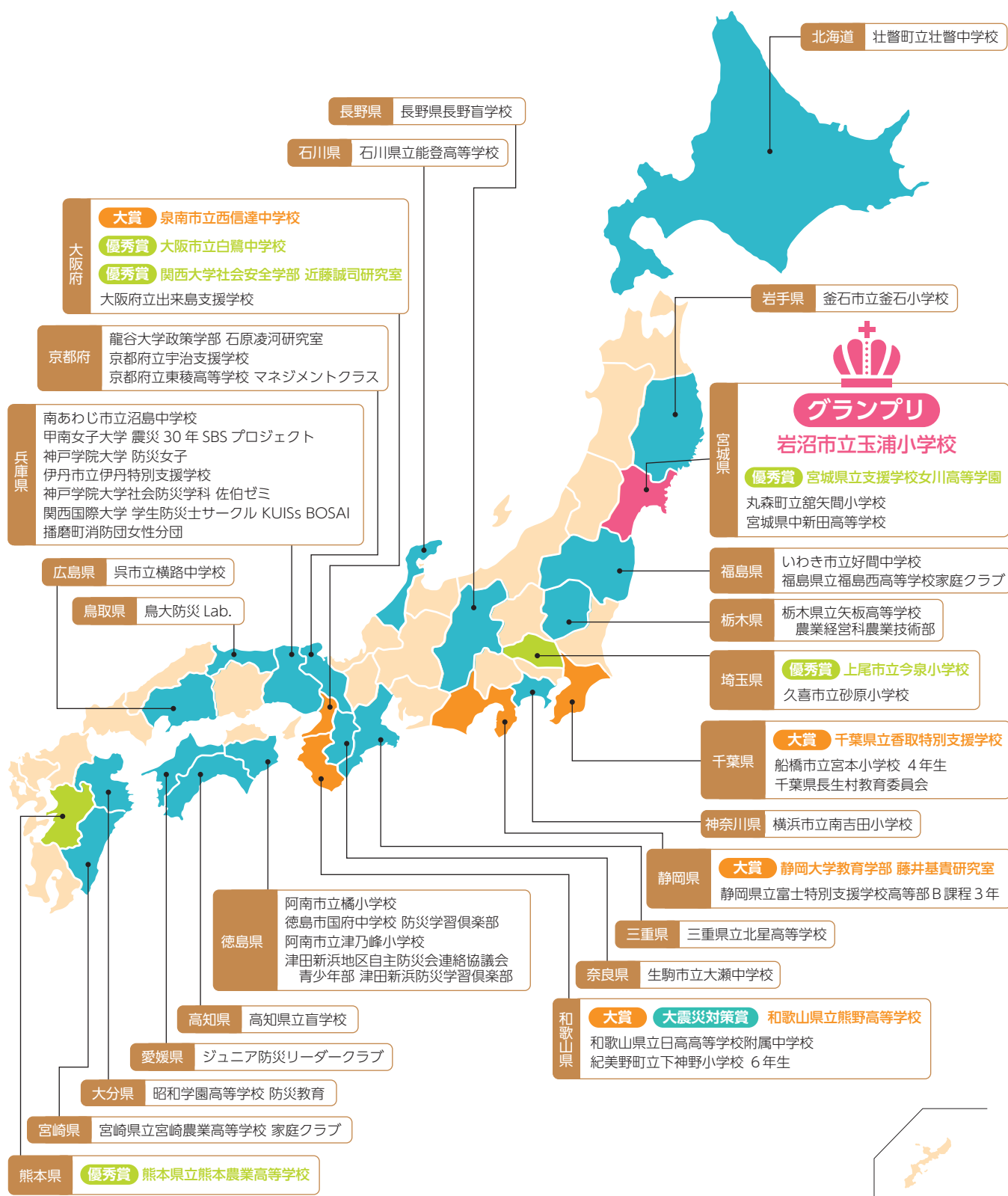
このほか、防災教育、防災活動に質の高い取り組みをされた各校に、優秀賞や奨励賞を始め、UR レジリエンス賞、はばタン賞、だいじょうぶ賞、フロンティア賞、そして、継続こそ力賞の各特別賞を授与しました。

さて、継続は力なり、という言葉があります。学校にいる間だけではなく、卒業してからも一生、防災の問題に関心を持ち続けてほしいと思います。我が国は世界一の災害国ですから、防災大国にならなければいけません。そのためにも、みなさんのように若い時代から防災に関心を持って活動することが大切です。みなさん一人ひとりが防災に関心を持ち日常生活を送ることが、災害に強い国になるということを知ってほしいと思います。

受賞校・団体のご紹介

今年度は、49 校・団体が受賞しました。

来年度も、更にレベルアップした取り組みのご応募をお待ちしています。



賞	部 門	都道府県	学校・団体名
グランプリ	小 学 生 部 門	宮 城 県	岩沼市立玉浦小学校
ぼうさい大賞	中 学 生 部 門	大 阪 府	泉南市立西信達中学校
	高 校 生 部 門	和歌山県	和歌山県立熊野高等学校
	大 学 生 部 門	静岡県	静岡大学教育学部 藤井基貴研究室
	特別支援学校・団体部門	千葉県	千葉県立香取特別支援学校
優秀賞	小 学 生 部 門	埼玉県	上尾市立今泉小学校
	中 学 生 部 門	大 阪 府	大阪市立白鷺中学校
	高 校 生 部 門	熊本県	熊本県立熊本農業高等学校
	大 学 生 部 門	大 阪 府	関西大学社会安全学部 近藤誠司研究室
	特別支援学校・団体部門	宮城県	宮城県立支援学校女川高等学園
奨励賞	小 学 生 部 門	徳島県	阿南市立橘小学校
	中 学 生 部 門	福島県	いわき市立好間中学校
	高 校 生 部 門	石川県	石川県立能登高等学校
	大 学 生 部 門	京都府	龍谷大学政策学部 石原凌河研究室
	特別支援学校・団体部門	高知県	高知県立盲学校

令和6年度 特別賞		説 明	学校・団体名
大震災対策賞		来るべき南海トラフ地震、首都直下地震への対策につながる優れた取り組みに贈られる賞です	和歌山県立熊野高等学校(和歌山県)
URレジリエンス賞		被害を減らすと同時に、復旧までの時間を短くすることにより、社会に及ぼす影響を減らす“レジリエンス(縮災)”という考え方に繋がる取り組みに贈られます	丸森町立館矢間小学校(宮城県)、久喜市立砂原小学校(埼玉県) 南あわじ市立沼島中学校(兵庫県)、和歌山県立日高高等学校附属中学校(和歌山県) 宮城県中新田高等学校(宮城県)、宮崎県立宮崎農業高等学校 家庭クラブ(宮崎県) 甲南女子大学震災30年SBSプロジェクト(兵庫県)、神戸学院大学 防災女子(兵庫県) 京都府立宇治支援学校(京都府)、大阪府立出来島支援学校(大阪府) 伊丹市立伊丹特別支援学校(兵庫県)
はばタン賞		阪神・淡路大震災以降に被災した地域にエールを送るため、これら地域を対象に被災の経験と教訓から生まれた優れた活動に贈られます	釜石市立釜石小学校(岩手県)、呉市立横路中学校(広島県) ジュニア防災リーダークラブ(愛媛県) 昭和学園高等学校 防災教育(大分県) 神戸学院大学社会防災学科 佐伯ゼミ(兵庫県) 長野県長野盲学校(長野県)
だいじょうぶ賞		安心・安全な街づくりを目指す「だいじょうぶ」キャンペーン実行委員会にちなんだ賞 防犯や街の身近な安全、安心・安全なまちづくりを目指す優れた活動に贈られます	紀美野町立下神野小学校 6年生(和歌山県) 徳島市国府中学校防災学習倶楽部(徳島県) 三重県立北星高等学校(三重県) 京都府立東稜高等学校 マネジメントクラス(京都府) 関西国際大学 学生防災士サークル KUISs BOSAI(兵庫県) 静岡県立富士特別支援学校高等部B課程3年(静岡県)
今年度「テーマ賞」	フロンティア賞	防災教育活動の広がりを促進するための賞 過去に受賞がなかった地域・分野での先導的な取組または初応募の優れた取り組みに贈られる賞です	船橋市立宮本小学校 4年生(千葉県) 横浜市立南吉田小学校(神奈川県)、壮瞥町立壮瞥中学校(北海道) 栃木県立矢板高等学校 農業経営科農業技術部(栃木県) 鳥大防災Lab.(鳥取県) 千葉県長生村教育委員会(千葉県) 播磨町消防団女性分団(兵庫県)
	継続こそ力賞	過去数年に渡り継続的に実施された優れた取り組みに贈られる賞です	阿南市立津乃峰小学校(徳島県) 生駒市立大瀬中学校(奈良県) 福島県立福島西高等学校家庭クラブ(福島県) 津田新浜地区自主防災会連絡協議会 青少年部 津田新浜防災学習倶楽部(徳島県)

グランプリ

小学生
部門

宮城県／岩沼市立玉浦小学校

命を大切に あきらめない 玉浦小学校

東日本大震災で岩沼市は死者 149 名、全戸停電・断水という大きな被害を受けた。総合的な学習の時間では3学年「校舎防災マップ」、4学年「岩沼の災害の歴史を調べよう」、5学年「通学路防災マップ」、6学年「未来の玉浦を考えよう」と身近な防災から、玉浦地区が今後ますます復興していくための未来図を描くという系統的な学習を行っている。



昨年度は6学年が主体的に「防祭」イベントを実施し、地域の方と一緒に防災意識を高めることができた。今年度も姉妹都市である高知県南国市と防災交流を行い、6学年が防災教育の取組紹介や防災運動会などを企画・準備して、防災意識の向上や災害に対する理解を深めている。

ぼうさい大賞

中学生
部門

にしんだち
大阪府／泉南市立西信達中学校

みんなでたすかる～つながる防災プロジェクトN～

本校の防災教育では、教員の得意な分野と生徒が興味関心を持つ課題とをマッチングさせ、自ら探求できる課題に即した取り組みを進めている。その取り組みを「防災ゼミ」と名付け、テーマを「情報」「食」「安全」「ユニバーサル」の4つに設定した。ゼミ活動では、「防災レシピの作成」「地域防災新聞の発行」「エコノミークラス症候群予防体操の考案と実践」「避難経路の安全確認」等について、生徒が自ら考え実践につなげた。これらの成果を毎年 10 月に行われる「地域フェスタ」で、生徒自ら企画した「防災体験ブース」を設置、発表した。地域の「防災・減災」に対する取り組みの強化と「みんなでたすかる」取り組みの充実をめざしている。



高校生
部門

和歌山県／和歌山県立熊野高等学校 大震災対策賞

地域に根差した高校生防災リーダーの育成と教科防災授業の取組

平成23年紀伊半島大水害で和歌山県は甚大な被害を受けた。この災害の教訓を生かそうと地域に根差し貢献する高校生リーダーの育成をモットーに『Kumano サポートズリーダー』部の防災活動を開始。高齢者の安否確認や空き家調査、地域猫の調査等を行い、6月には JR きのくに線と田辺市による合同避難訓練に参加。6年前から継続して活動している AED シートの普及活動は、3月8



日の国際女性デーに商標登録を行い、8月には JR 大阪駅や天王寺駅に約30個設置、全国展開を継続している。高校1年生の必修科目「地理総合」では地理院地図を用いた「マイ防災マップ」作りを行い、「家庭基礎」では防災グッズや備蓄を用意する探究学習を実施した。



大学生
部門

静岡県／静岡大学教育学部 藤井基貴研究室

教職目指す学生発「考える・脅さない・伝える・支える」防災教育



東日本大震災をきっかけとして防災教育の活動を積み重ねてきた。これまでの「考える防災」「脅さない防災」「伝える防災」に加え、災害ボランティアを支援する「支える防災」を新たに立ち上げ、包括的な取り組みを国内外に広げている。今年度は「防災 × 妖怪」を題材とした紙芝居も制作し、静岡市立図書館等と共同事業を行っている。地元企業と共同開発した防災総合アプリ「クロスゼロ」は1万件以上のダウンロードされた。高校生による防災講座を支援する「BOSAI ユースアンバサダー事業」

も静岡県、愛知県、宮城県へと広がっている。能登地震を受けて、「ユース災害ボランティア基金」を設立し、のべ200名以上の学生ボランティアを被災地（石川県・山形県）に送り届けた。



ぼうさい大賞

特支・団体
部門

千葉県／千葉県立香取特別支援学校

12年間の系統的な教科指導による安全・安心に過ごせる力の育成



本校は、「発酵の里 こうざき」と銘打っている神崎町にあり、江戸時代には利根川の水運により栄え、肥沃な大地と豊かな水源、自然の恵みに満ちあふれた地域にある。東日本大震災では、地盤沈下等の影響により校舎に大きな損傷を生

じた。また、洪水ハザードマップでは、浸水想定区域に入っており、垂直避難訓練を実施している。先の台風13号には、前日に休校の連絡をしたが、地域や保護者からの情報や意見を踏まえて決めることができた。主

に知的障害がある児童生徒約130人の命を守る教育を推進している。本校は、これまで知的障害教育における教科指導の在り方の実践研究を行い、小中高の全学部で、安全・安心をテーマに研究に取り組んでいる。

優秀賞

小学生
部門

埼玉県／上尾市立今泉小学校

今っ子防災隊まちづくりプロジェクト（～災害に強く誰にでも住みよいまちへ～）

児童はSDGsゴール11「住み続けられるまちづくりを」の課題として、上尾市の防災意識を高めるため、活動計画書を作成。上尾市、消防署、陸上自衛隊など、10以上の企業・団体の協力を得て、避難所の運営に関わる力を養い、今っ子ボランティアクラブを立ち上げた。また「あげおいなエフエム」で児童がパーソナリティとなり、「今っ子防災ラジオ」の放送を行った。上尾市の小学生から大人、障がいのある方、行政、企業・団体などの多くの人々の防災の輪を広げることができた。



「ぼうさい甲子園」の特設サイトを
開設しています

<https://bousai-koushien.net/>

防災教育の力と知恵の広がりを応援するとともに、全国の学校・団体のさまざまな取り組みを紹介するため、「ぼうさい甲子園」の特設サイトを開設しています。

受賞校・団体の紹介動画や取り組み状況など、本誌では伝えきれない内容を掲載しています。是非ご覧ください。

中学生
部門

大阪府／大阪市立白鷺中学校

防災を自分事に！ 2024 ～地域防災の未来を担う白鷺中学校生～

校訓「思いやり」と「そうぞう力」のもと実践する防災教育により、非常時だけでなく日常生活でも自他の生命や人権を尊重し、主体的に行動できることを目指している。保護者や地域・関係諸機関と取り組む防災授業『白鷺防災デー』は学年ごとに発達段階に応じた内容で、自助・共助・公助を学ぶ場として定着している。また生徒自主防災チームは防災学習会、校外学習、校区小学校・地域に向けての防災啓発活動でICTを積極的に活用し、リーダーとしての資質の涵養を目指している。



高校生
部門

熊本県／熊本県立熊本農業高等学校

先輩たちの取組から・・・学校・地域連携防災教育への発展



昨年度「ぼうさい大賞グランプリ」を受賞し、7つの学科が特色のある取り組みをスタートさせている。農業土木科では、かまどベンチで使用する燃料の調達についてSDGsの観点から考えた。園芸・果樹科では、「匂い」をテーマに、規格外柑橘類から香り成分の抽出に成功、避難所での快適な空間を演出する研究をまとめた。畜産科では本校で飼育した豚肉を用いたレトルト食品の開発に成功した。今年度、熊本市震災対処実動訓練が本校の防災公園を中心に計画されるなど、取り組みが広がりを見せている。

大学生
部門

大阪府／^{せいじ}関西大学社会安全学部 近藤誠司研究室

ローカルメディアを活用した「みんなのぼうさい」の実現

近藤研究室は災害情報論を専門とするゼミナールで、全国各地でローカルメディアを活用した実践を行っている。スローガンは「みんなのぼうさい」。現在10種類のプロジェクトを展開している。小学校の昼休みにおける校内防災放送（神戸市）CATVを活用した住民主体の「火の用心CMキャンペーン」（京丹波町）、難病患者と協力して防災シンポジウムを開催（尼崎市）、配食サービス時に独居の高齢者に「防災かわら版」を届ける（大阪府島本町）などの取り組みを実施している。



優秀賞

特支・団体
部門

宮城県／宮城県立支援学校女川高等学園

防災教育を地域の生涯学習へ ～相互に学び合える環境作り～

本校は開校以来「地域と共に学ぶ防災教育の充実」を目標に掲げている。生徒自身が主体的に実践する『総合防災訓練』という学びの仕組みを確立。同時に、東日本震災から13年が経過し、継承という観点で過渡期にある。昨年度から再び地域と共に取り組んだ活動では、地域から学ぶ過去の教訓や体験に加え、大雨や台風等に備える新たな視点も盛り込みながら、学校と地域が「相互に学び合える環境作りと循環」を目指した。



奨励賞

小学生
部門

徳島県／阿南市立橘小学校

地域と共に～自分の命は自分で守る みんなの命はみんなで守る～

今年で5年目となる防災学習では「自分の命は自分で守る みんなの命はみんなで守る」を合言葉に、主体的に行動できる力を育成している。今年度は、家庭の防災行動力を高めるため「ユレタキャラバン」を参観授業として実施、保護者への啓発を行った。高学年児童が自主的に学習成果をまとめた防災新聞を自分たちの手で地域の方へ配布するなど、地域の防災リーダーとしての意識が根付いてきている。地域と共に、みんなの命をみんなで守る町をつくっていく。



中学生
部門

福島県／いわき市立^{よしま}好間中学校

地域と共に、総合的な学習の時間における好間中防災教育



令和元年台風19号で本校の学区も甚大な被害に見舞われた。そこで、令和4年度より総合的な学習の時間に防災教育を始め、今年度で3年目となる。1年生「自助」、2年生「共助」、3年生「公助」をテーマに、地域の団体と共に防災教育を行った。また、昨年度9月、再び豪雨災害に見舞われた際、本校の避難所開設を率先して手伝い、今年度は、地区防災訓練の運営の補助として積極的に参加し、地域の方からの感謝と防災教育についての高い評価を得ている。

高校生
部門

石川県／石川県立能登高等学校

能登の安全を守り隊！～子どもの笑顔を守るためにできること～

「地域を元気にする」をテーマに、令和2年度より総合的な探究の時間に自然災害に見舞われた地域の課題を調べ、被害を防ぐ方法を考えた。避難所となる場所の様子や近辺をあらかじめ 360 度カメラで撮影、電柱に2次元バーコードとして貼り付けておく、震災後の子どもの居場所を確保するために「こどもお助け隊」を組織して小さな子どもたちに安心できる場を提供するなど、防災意識を高める取り組みを行った。震災後は県内外にも経験を伝え、防災の意識を広めた。



大学生
部門

京都府／^{りょうが}龍谷大学政策学部 石原凌河研究室

能登半島地震の教訓を踏まえたインクルーシブ防災教育の実現

2016 年の研究室発足当初から徳島県阿南市の小学校を対象に、延べ 30 校で防災教育出前授業を継続。能登半島地震の発生に伴い、2月から計 12 回の被災地でのボランティア活動を行い、被災地の現状や必要な支援について知った。また、75 歳以上の独居世帯を訪問し、被災者の現状を理解した。これらの活動から被災者の困りごとや被災地の現状、一人ひとりに寄り添うインクルーシブ防災という観点を授業内容に取り込み、小学生から波及する防災教育を実施している。



特支・団体
部門

高知県／高知県立盲学校

「このままではいかん！」もお（盲）～っともお～っ と 備えよう！

本校は、高知県で唯一の視覚支援学校。幼稚部から、成人の方も学ば高等部医療科まで幅広い年齢層の児童生徒が在籍している。児童生徒の見え方も様々（弱視・全盲）で、視覚障害当事者の教職員もいる。本校では、「地震・津波」について「みんなで助かり幸せになるために」をテーマに積極的に取り組んでいる。視覚障害のある人が生活していることや具体的な支援方法についても発信した。「連携・共助」を目指して、地域の防災フェアに参加するなど、地域社会も巻き込み、頑張っている！



小学生
部門

宮城県／丸森町立^{たてやま}舘矢間小学校

自分たちで防災・減災について課題を設定し、調べまとめ発信する。

令和元年度東日本台風で町内全域が被災。令和4年度に3つの学校を統合、学区が広がり、災害リスクが増えた。災害時に地域で助け合おうという気持ちを高める「丸森未来防災フェスタ」を開催。5・6年生が防災・減災の取組や提案を発表した。

小学生
部門

埼玉県／久喜市立砂原小学校

われら防絆カンパニー
～地域の絆でできることをやってみよう～

安心安全な住みよい街のために「防絆（ぼうさい）カンパニー」を立ち上げた。災害支援に派遣された市職員や、東日本大震災の語り部をゲストティーチャーに迎え、生の声を取材。自分たちにできることを発信し、防災を探求する。

中学生
部門

兵庫県／南あわじ市立沼島中学校

「石川ピカピカ大作戦」
地域と歩む防災ジュニアリーダーの育成

沼島小学校と合同で防災訓練・減災学習に取り組み、地域と連携している。生徒発案の能登半島被災地支援活動「石川ピカピカ大作戦!!」を実施。現地での体験と学びを沼島総合防災訓練で報告。南海トラフ地震後の復興を想定した取り組みに発展した。

中学生
部門

和歌山県立 和歌山県／日高高等学校附属中学校

防災について学ぶ ～私たちにできること～

2年時までの2年間で防災学習を進め、3年時には修学旅行で東北を訪れることでさらに防災の学びを深める。避難経路確認、現地学習など様々な活動を通し、生徒達が「自らリーダーに」と防災キャンプで率先して活動するなど広がりを見せている。

高校生
部門

宮城県／宮城県中新田高等学校

地域と学ぶ防災・減災の取り組み
学校設定科目 地域防災学

学校設定科目「地域防災学」を立ち上げ、年間を通して防災・減災をテーマに授業を実施。地域や大学と連携、静岡大学の支援で幼稚園児に防災教育を行う取り組みを計画。防災意識の高い生徒を育て、課題解決する資質・能力を育てる授業を実践する。

高校生
部門

宮崎県立宮崎農業高等学校 宮崎県／家庭クラブ

宮農発！地域をつなぐ防災プロジェクト

「防災は一日にしてならず」の思いで、専門性を活かした防災活動に取り組んでいる。防災食の試作や、地域や中学生との災害シミュレーション、保育園におもちゃ付き防災リュックを寄贈するなど、防災力向上に実践的に取り組んでいる。

大学生
部門

甲南女子大学 兵庫県／震災30年SBSプロジェクト

震災 30 年特別番組制作プロジェクト
「つなぐ・伝える」

震災を経験していない学生が当時の記憶や経験を伝えるために、芦屋市・J:COM と連携し広報番組を制作・放送した。障がい者支援、震災時の女性問題、防災意識の向上をテーマに自分たちで何ができるかを「つなぐ・伝える」。

大学生
部門

兵庫県／神戸学院大学 防災女子

大切な命を守るために
～やってみたくなる フェーズフリーな備え～

「女子力で災害を乗り切っていこう」をコンセプトに 2014 年6月に結成、防災啓発に取り組んでいる。妊娠・出産・授乳・生理など配慮の必要な当事者である女性が、他の人たちも巻き込みながら意見・提案を発信していく。

特支・団体
部門

京都府／京都府立宇治支援学校

意識から行動へ
～体験型教育活動を中心とした防災力の育成～

知的障がいと肢体不自由の児童生徒が 332 名が在籍している。特性に配慮し、避難所体験や消火器体験、VR 体験など、様々な体験で意識を高めている。地震対応訓練を通して、どこにいても身を守る行動を身に着けることを目指している。

特支・団体
部門

大阪府／大阪府立出来島支援学校

開校初年度の支援学校が実践する、
災害対応力を育む防災教育

2024 年 4 月に開校。知的障がいのある児童生徒が在籍しており、防災マニュアルの作成や学習に取り組んでいる。河川氾濫、津波浸水が想定される地域にあり、地域と連携して避難訓練などを実施。非常時でも自分を守り、協働できる力を育んでいる。

特支・団体
部門

兵庫県／伊丹市立伊丹特別支援学校

「みんなで繋ごう“命”のバトン」 ～本校のBCPと防災教育について（3年間の軌跡）～

本校ではBCP策定と防災を織り交ぜた授業に取り組んでいる。「防災」を特別視せず、普段の学習＝防災学習となるように取り組みを継続することで、児童生徒が楽しみながら心身ともに安全で落ち着いた行動ができるようになってきている。

はばタン賞

小学生
部門

岩手県／釜石市立釜石小学校

自分の命を守る防災意識の醸成につなげる 防災教育再興

東日本大震災から13年、2008年から行ってきた防災教育を改善し実践することが未来へつながる。「ぼく、わたしのぼうさい安全マップ」「釜石市防災教育の手引き」「下校時津波避難訓練」を再考し、実践した。

中学生
部門

広島県／呉市立横路中学校

中学校区を巻き込んだ生徒主体の防災の取組

「生徒主体の授業づくり、学校づくり」の中心に防災の取り組みを位置づけ、教科横断的に授業を展開。保育所、小学校、PTA や地域との合同避難訓練などを実施し、生徒たち自ら、防災意識や地域貢献の思いを高めている。

小学生
部門

愛媛県／ジュニア防災リーダークラブ

ジュニア防災リーダーを核とした 松山市立全中学生防災教育の展開

防災まちづくりを展開するため、中学生の防災教育に力を入れている。核となるジュニア防災リーダーは小中高生合わせて1,000名程度。早期避難の重要性を訴え「災害からの逃げ遅れゼロプロジェクト」などを実施している。

高校生
部門

大分県／昭和学園高等学校 防災教育

まもるいのち ひろめるぼうさい ～自分の命は自分で守る～

2012年の北部九州豪雨災害では、生徒の多くが被害に合い、校舎も被災した。防災に対する意識向上のため、授業を通して学習することの必要性を考え、普通科3年での防災教育授業は年間通じて実施している。

大学生
部門

神戸学院大学 兵庫県／社会防災学科 佐伯ゼミ

次世代へつなぐ防災プロジェクト

災害を実際に体験した語り部の高齢化が進み、次世代へ語り継ぐことが難しくなっている。動画や写真などを活用し、語り部の体験を記録・保存、後世に語り継ぐことを目指している。若い世代の防災意識を高め、将来の災害に役立てたい。

特支・団体
部門

長野県／長野県長野盲学校

一人ひとりが主体的に活躍できる防災活動

本校では、日本赤十字社長野県支部協力での「炊き出し訓練」のほか、「避難所宿泊体験」「サバイバル飯炊き訓練」など防災活動を通じ、支援を待つだけでなく、自分の持っている力を発揮することを目的として取り組んでいる。

だいじょうぶ賞

小学生
部門

和歌山県／紀美野町立下神野小学校6年生

気仙沼から学び、きみの町の 『減災』町づくりにつなげよう！

昨年度から県内外の機関と連携し、劇やラジオ番組制作、こども園への防災遊び教室の企画など、様々な活動をしている。今年度は、地区合同訓練の実施。事前復興計画を作成するなど、減災のアイデアを提案書にまとめ、町へ提出した。

中学生
部門

徳島市国府中学校 徳島県／防災学習倶楽部

地域と共に、未来を拓き広げる防災教育

本倶楽部は、地域と連携し、災害発生時には被災地救援の基地として機能するように、地域と人材の育成目標に活動している。今年度は卒業生の高校生が被災体験一泊研修を運営した。防災を通じて地域の町おこしにも関われる存在になってきた。

高校生
部門

三重県／三重県立北星高等学校

「命の矢印」プロジェクト ～要支援者を含む地域との防災の日常化

本校では10年以上、地域との合同訓練を実施。要支援者を意識した避難訓練を実施するとともに、高台への避難意識の日常化のため、高台方向を示す「命の矢印」を地域住民に配布、外国人向けには「命の矢印」多言語バージョンを配布した。

高校生
部門

京都府立東稜高等学校 京都府／マネジメントクラス

東稜出前授業【アップデート版】

本校の「防災出前授業」を小・中・特別支援学校や児童館など7つの学校、施設で実施。受け入れ側の実態にあった出前授業が出来ていたかどうか、実践発表会でフィードバックする時間を設け、生徒たちが授業をアップデートする機会を設けた。

大学生
部門

関西国際大学学生防災士サークル 兵庫県／KUISS BOSAI

トルコから能登へ ～ボーダレスで持続的な災害被災地支援活動～

兵庫県のトルコ支援プロジェクトを活用しトルコに渡航、被災大学生と協働して小・中学生向け防災教材を製作し提供。心のケアを目的とした交流イベントを現地で実施した。来日したトルコ人高校生と合同で能登半島地震被災地の支援活動を行った。

特支・団体
部門

静岡県立富士特別支援学校 静岡県／高等部B課程3年

まなぼうさい 「学防災！～ぼくたちが地域を支える～」

静岡県地震防災センターで県の災害について学んだうえで生徒の居住地域でのフィールドワークを行い、地域の防災について学びを深めた。生徒自身が考え、避難行動に結びつく力が身につく、保護者の意識向上にも繋がっている。

フロンティア賞

小学生
部門

千葉県／船橋市立宮本小学校 4年生

宮本防災局

「釜石の軌跡」のビデオを視聴し、校長先生や市職員、消防団から東日本大震災当時の話を聞き、防災に関する知識を深めた。地域でアンケート調査を実施、避難所模擬体験や防災マップ作り、動画づくりなどを通して課題を解決することを目指した。

小学生
部門

神奈川県／横浜市立南吉田小学校

外国人集住地区の地域防災

～「防災てらこや」の取組を通して～

全校児童の57%が外国につながりを持つ本校では、防災意識を高め、国籍を問わず災害発生時に迅速な避難行動ができるように「防災てらこや」に参画している。子ども達が防災について考え、地域と連携して災害に強いまちづくりの一翼を担っている。

中学生
部門

北海道／壮瞥町立壮瞥中学校

噴火に対する備えと火山の恩恵を学ぶ防災教育

有珠山は20～30年周期で噴火を繰り返す火山で、前回の噴火から24年経過していることから、町全体の防災意識が高まっている。子ども達は、噴火への備えと火山のもたらす恵について学び、有事の際に自分ができることを真剣に主体的に考えている。

高校生
部門

栃木県立矢板高等学校

栃木県／農業経営科農業技術部

地域と連携した家畜動物の避難システムの構築

日本の畜産現場では、閉じ込められた環境でライフラインが止まると家畜が死ぬ。伝統的、遺伝的に貴重な命が失われないために、家畜動物にも災害時の避難システムが必要で、家畜動物も避難するという新しい価値観を発信、災害に負けない農山村社会の構築に貢献したい。

大学生
部門

鳥取県／鳥大防災Lab.

地域と未来を繋ぐ：

体験型ワークで広げる多世代への防災啓発活動

2019年に鳥取大学の学生及び教職員で結成されたサークルで、防災教育ワークショップや鳥取県版HUG体験会の企画及び講演会の支援などを行っている。地元ラジオへの出演や学会での活動事例発表など、防災啓発活動に取り組んでいる。

特支・団体
部門

ちょうせい

千葉県／千葉県長生村教育委員会

防災教育の推進

～防災部・防災クラブの実践をととして～

防災教育推進のため、小・中学校にクラブを立ち上げた。防災イベントやこども園との合同避難訓練、中学校防災部員全員がジュニア防災検定を受験（村が検定料全額補助）するなど、災害時に地域に貢献できる児童生徒の育成を目指している。

特支・団体
部門

兵庫県／播磨町消防団女性分団

明るく、楽しく、無理なく18年、地域密着型の防災活動

2006年に結成した当団は、毎月活動報告「けすゾウ新聞」を発行、防災啓発劇の上演、防災イベントへ参加するなどしている。啓発劇は「防火」「防災」「救命」の3種。台本にはないアドリブ満載で、対象者の年齢に合わせて劇の伝え方を工夫している。

継続こそ力賞

小学生
部門

徳島県／阿南市立津乃峰小学校

世代や地域を超えてつながる、持続可能な日常としての防災教育

本校では防災教育を学校教育の主軸として実践を行っている。計画的に取組み、継続することで、児童にとって防災が特別なものではなく、非常事態にも冷静に対処できる姿勢が育ってきた。世代を超えてつながる防災教育を目指している。

中学生
部門

奈良県／生駒市立大瀬中学校

中学生がつくった地域の防災教育キット

2年生が防災についての探究学習を実施。学んだことを、劇、クイズ、かるた、展示など多様なものに落とし込み、制作物を防災教育キットとして、地域の公共施設や小学校などで活用する。中学生の作品を教材化することを通して、地域との繋がりを作っていく。

高校生
部門

福島県／福島県立福島西高等学校家庭クラブ

アイディアと体験で防災力UP！ 西高から家庭につなげる防災対策

令和2年度から3年計画で「西高防災対策プロジェクト」を実施。地域へ防災啓発リーフレットを配布し、防災用便器を考案、プレゼントした。夏の暑さ対策や災害時の睡眠についても研究し、地域や家庭でも防災対策と体験が必要であることを啓発した。

特支・団体
部門

津田新浜地区

自主防災会連絡協議会青少年部

徳島県／津田新浜防災学習倶楽部

地域と共に 未来を拓く 防災学習

当倶楽部は自主防災会の青少年部として活動。地元のメンバーを中心に後輩の育成を行い、県外のOB・OGも各自の進路で防災を学んでいる。大学の自主研究奨励事業の採択を受け、新たな活動や視点を取り入れて、青少年を主体とした防災のかたちを作っていく。

表彰式・発表会 概要



毎日新聞社提供

趣 旨

阪神・淡路大震災の経験を通して学んだ自然の驚異や生命の尊さ、ともに生きることの大切さを考える『ぼうさい教育』を推進し、未来に向け安全で安心な社会をつくる一助とします。児童・生徒・学生が学校や地域において主体的に取り組む、『ぼうさい教育』に関する先進的な活動を顕彰します。

プログラム

令和 6 年 12 月 21 日（土） 兵庫県公館

13:00	開 会 開会のことば 主催者あいさつ	●河田 恵昭 (公財) ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター長 ●齋藤 元彦 兵庫県知事 ●木戸 哲 毎日新聞大阪本社編集局長
13:15	表 彰 式	●1.17 防災未来賞「ぼうさい甲子園」表彰 (グランプリ・ぼうさい大賞、優秀賞、奨励賞、大震災対策賞、URレジリエンス賞、はばタン賞、 だいじょうぶ賞、フロンティア賞、継続こそ力賞) ●防災力強化県民運動ポスターコンクール表彰 (ひょうご安全の日推進県民会議会長賞、人と防災未来センター長賞)
14:20	発 表 会	●スペシャル・プログラム 大阪大学人間科学部1年 戎井 光来 さん ●1.17 防災未来賞「ぼうさい甲子園」受賞校・団体による活動発表 司会：和歌山県立熊野高等学校 放送部
15:45	講 評	●河田 恵昭
16:00	閉 会	

表彰式の様子

表彰式は、グランプリ・ぼうさい大賞からはじまり、来場者に表彰状や副賞が授与されました。

グランプリ・ぼうさい大賞



優秀賞



奨励賞



URレジリエンス賞



はばタン賞・だいじょうぶ賞



フロンティア賞・継続こそ力賞



写真はいつでも毎日新聞社提供

会場展示の様子

会場には、受賞校・団体が作成した新聞やポスターが掲示されました。各地での防災学習の成果が一堂に集まり、充実した見ごたえのある空間となりました。



発表会の様子

ぼうさい甲子園20回目、阪神・淡路大震災から30年を迎えるにあたり、ぼうさい甲子園OBによる講演を行いました。

スペシャル・プログラム「津田で学んだ防災から」

中学・高校時代の地域での活動のほか、大学進学後の取り組みや今後の目標について語りました。

津田新浜防災学習倶楽部 部長
大阪大学人間科学部1年 戎井 光来さん



発表会は、グランプリ・ぼうさい大賞、優秀賞を受賞した10校が5分ずつ発表を行いました。

発表会の司会は和歌山県立熊野高等学校放送部が行いました。



司会 熊野高等学校放送部の鳥原末夢羽さんが司会を務めました。



グランプリ 岩沼市立玉浦小学校
命を大切に あきらめない 玉浦小学校



ぼうさい大賞 泉南市立西信達中学校
みんなでたすかる～つながる防災プロジェクトN～



ぼうさい大賞・大震災対策賞 和歌山県立熊野高等学校
地域に根差した高校生防災リーダーの育成と教科防災授業の取組



ぼうさい大賞 静岡大学教育学部藤井基貴研究室
教職目指す学生発「考える・働かない・伝える・支える」防災教育



ぼうさい大賞 千葉県立香取特別支援学校
12年間の系統的な教科指導による安全・安心に過ごせる力の育成



優秀賞 上尾市立今泉小学校
今っ子防災隊まちづくりプロジェクト(～災害に強く誰にでも住みよいまちへ～)



優秀賞 大阪市立白鷺中学校
防災を自分事に! 2024 ～地域防災の未来を担う白鷺中学校生～



優秀賞 熊本県立熊本農業高等学校
先輩たちの取組から・・・学校・地域連携防災教育への発展



優秀賞 関西大学社会安全学部近藤誠司研究室
ローカルメディアを活用した「みんなのぼうさい」の実現



優秀賞 宮城県立支援学校女川高等学園
防災教育を地域の生涯学習へ ～相互に学び合える環境作り～

※司会者及び10校による発表の写真は毎日新聞社提供

吹き出し煎鍋でアルファ化米を
分ける生徒ら—白鷺中学校理科

2024年11月に熊本県内で行った防災講座イベントで活動を紹介する生徒たち—熊本農業高校

防災ラジオドラマを制作する小学生—近藤誠司研究員提供

ペットボトルを使った歩行
三女川高等学校提供

ぼうさい甲子園 10 学校・団体が発表

例一 たま川遊覧船になったのよ 随年め橋

[illegible]

「防炎の機会を止むに
バケツを準備せしなれ」
「一をすべし、幸ひもすべし」
に非ずや。語らずに目の
使ひ方、運轉の大切も
学んだ。當年八月は日
ラインの暴風、お民の
防炎の機を奪ふも、
「去年、竹藪を火に引
くは、自らの命を奪ふ」
と、一語、諸君を慰めたる。幸ひもすべしに防炎の取
り組みを知つて、お民の
思ふこと、お民の言、聞
くも日本へ輸入され、聞
くを却る。改めて時大
ききを見て、お民の言
を聞く。『前本報告』

宮城県岩沼市立玉浦小学校は、統合のな

南国市と交流するなど活動は多彩です。選
花賞の獲得一役でグランプリに輝きました

良い形になっています。初年度ながら2017年度から驚くくらい高評価が評価されています。

私立・私立専修校高専校にも応募数が多い。高校生中心で位階を希望する「夜校生」です。一人でも多くの命を活動できる日々を築いていけることが望まれる。新設した大規模な活動室を投資しています。

「高専校」の調査研究は、高専校への支援を通じて「防災教育の広まる」ことを目指します。機能半壊校を受け入れ研究するO3と「ユース・ラボラトリア（基盤）」設立し、学生ラボラトリーを校地にも取り組まします。

「千葉県立高専校」を支援する、法人化マップで「指定区域」に安全、新築建替計画などを実施してきました。地域と連携し、安心安全にできる「高専校」を「地域」に指し示しています。児童・生徒が生活の命を守るよう、取り組みを積み重ねてきたことが評価されています。

地域や住戸など四つの観点で審査し、特に優れた4校地を表彰しました。

- 応募開始 令和6年6月14日
- 応募締切 令和6年9月30日
- 選考委員会 令和6年11月1日
- 記者発表 令和6年12月2日
- 表彰式・発表会 令和6年12月21日



兵庫県マスコット
はばタン

育む新たな担い手

ぼうさい大賞 **ゼミ形式で学習展開** 大阪府泉南市立西信濃中

大府宮南市立西直通中学校は、生徒が自分で選択して授業を受けるように、教員が大学卒業生ならシラス（授業補助）を作って内容を教える、と、近形式「防衛教育」を展開した。これは、情報、食、安全、ユニバーサル（4つの分野で、地域の防災食卓を核として新開塾や非常食のレシピを得意心で担当する）アメリカンクラブや非営利に委託など、と経路を経たことだ。校舎を建て、生徒などから多様な内容を使うんだ。また、ベルや中国などから取り入れる市の高菜漬栽培、各県の復興や備忘についてインタビューして文庫を出版した。

生徒たちが配属を考へる避難所設け組織も飛躍した。3年、配属を考へる避難所(15)は「バットーと避難し合い」と考えたが、南生面ながら県内に暮らした難民が来たかった。南生面ながら「バットーと避難し合い、被災者の避難所をスベスベの避難所と、避難所設けで被災地や避難者、被災者など、あらゆる立場の人を考へることになった。避難所」と喜んだ。11年の上杉明子さん(13)は「今後、避難所

はどんなものがよいか、生徒や地域でアンケートを取ってみたいと思った」と意欲を燃やしていた。

【前本麻白】



習熟所習得の知識をふる生活たち—西側道中提供

ぼうさい大賞 支援者を支える力に 静岡大教育学部 藤井真樹研究室

2年連続でぼうさい大賞に輝いた静岡大教育学部
藤井基貴研究室は東日本大震災以降、「考える・備
えない・伝える防災」を合言葉に防災教育の教材開
発などを続けてきた。2024年度からは「支える防災」
を加えた。

「支える防災」は災害ボランティアを支えることを意味し、24年1月の能登半島地震を受けて、研究室の卒業生らと「ユース災害ボランティア基金」を設立。寄付を集めて交通費や宿泊費を支援し、延べ250人の学生ボランティアを被災地に送った。オンライン研修や振り返りも実施した。

また、継続事業として、学校での防災教育で児童・生徒同士が集まる時間を大切にする教材の開発を進めた。低年齢の子ども向けの組立図や絵本も制作。恐怖や不安を過剰にあおらないよう、保育園や幼稚園での講座にも出向いた。

さらには高校生による防災講座を支援する「BOSAI」以上の高校生が参加。このほか企業と連携し

研究室の大学院1年、新美育歩さん(23)は「さらに多くの学校を訪れ、中学生や高校生の防災意識を高めていきたい」と抱負を語った。【野口由紀】



藤井基員研究室は能登半島地震を受けて、卒業生らと「基金」を設立し、学生ボランティアを被災地に送ってきた三同研究室提供

ぼうさい大賞 大震災対策賞 部活動から広がり 和歌山県立熊野高

和歌山早立鹿野高校は、生徒が犠牲になった2011年の紀伊半島豪雨を教訓に「地域に根ざし、地域に貢献するリーダー」をモットーに据える「Ikanu oサポートリーダー」が部活動として防災に取り組んできた。今年度は地理総合の授業で1年生がそれぞれの「マイ防災マップ」を作成するなど取り組みを広げている。

マップは、県内の広範囲から生徒が通学していることから、自宅周辺にいるときに南海トラフ巨大地震が発生した場合を想定し、国土地理院提供のハザードマップを参考に自宅周辺を色分け。自宅から避難場所までの最短ルートを確認した。

サポーターズリーダーの部員を中心に、駅の置き忘れ率の布をアップサイクルして自動体外式除細動器(AED)使用時に体を覆えるシートを製作。「エシカル版AEDシート」としてJR大塚駅やJR京都駅などに配布した。シートは女性のAED使用率が男性より低いことに着目したもので、県外からも問い合わせが寄せられている。

サポーターズリーダー部長の1年生、藤原未夢さん(16)は「新しいアイデアを提案しながらできる防災を増やしたい」と話した。【高木香奈】



2024年5月にJHきのくに線で行われた古岡避難訓練に参加した生徒たち(前編)＝熊野嘉穂氏

ぼうさい大賞 「安全に過ごす力」を養う 千葉県立 香取特別支援学校

千葉早立高取特別支援学校は、小中高の12年間を通じて「安全・安心に過ごせる力」を養おうと取り組んでいる。夏には医療のケアが必要な児童・生徒と保護者、近隣の自治体などと避難訓練をした。発電機や段ボールベッドを実際に使い、ドローンで上空から避難ルートを描けるなど多岐にわたる訓練で、参加者それぞれの価値を高めた。

楽しみながら学生生活をしている。文化祭では、同校のキャラクター「かとりん」が道首を穿つ姿勢などのイラストが入ったキーホルダーやマグネットをカプセルトイにした。さらに「命の大切さ」を学ぶために、重りがついたジャックツを賞用する妊婦体験もした。生徒会長の3年、崎崎貴志さん(18)は「実家に妊婦さんから話を聞いて、おなかの中にある命を意識した。自分自身も大切に、そして小さな命、小さい子も守りたいな」と話

障害があるからといって周囲が守るだけでなく、児童や生徒本人の学びの機会を大切にしていきたい」と思った。

【前本舞台】



試験で段ボールベッドの使用感を確認する
愛知県立支援学校の生徒たちへ同校提供

次世代のリーダーに



斎藤



人

創意と工夫意義深く

2024年5月1日に起きた能登半島地震は、私最悪の災害を訪ねましたが、過渡期と高齢化が進む集落の奥の難しさを目の当たりにするとともに、被災者を支援する一歩助の一歩助の意識を再認識しました。今回、ほうさい108年にあがった108年間はそれぞれに創業者が感じている、地域との連携と共同活動を通じて活動が多く、心強い限りです。

25年は阪神大震災から30

共助の重要性再認識

2024年度
「ほうさい甲子園」受賞一覧
＜グランプリ＞
宮城県岩沼市立玉崎小学校

＜ほうさい大賞＞
大宮和泉南公立西濃中学校
和歌山県立南野森校
静岡大教養学部藤井基義研究室
群馬県立青歌特別支援学校

＜優秀賞＞
埼玉県上尾市立今泉小学校
大阪市立白旗中学校
熊本県立熊本商業学校
岡山大学社会文化学部近藤敏研
宮城県立支援学校女川宮等学園

＜特別賞＞
徳島県阿南市立楠小学校

兵庫県あわじ市立島崎中学校
和歌山県日高市立高野中学校
宮城県中新田高校
宮崎県立高崎高等学校校庭クラブ
甲府市大塚第30年SBSプロジェクト
神戸学院大学防災女子
京都府立宇治支援学校
大塚市立出来高支援学校
兵庫県伊丹市立伊丹特別支援学校

＜はばたき＞
広島県石井市立釜石小学校
岩手県奥州市立堀崎小学校
愛媛県ジュニア防災リーダークラブ
大分県立宇佐防災教育センター
神戸学院大学防災学系
長野県長野高等学校

＜はじょうぶ＞
和歌山県紀美野市立津野小学校6
徳島県海陽町立海陽中学校防災部

千景県教育委員会
徳島県環境防災防衛女性分課
◇継続協力力賞◇
徳島県立徳島市立津方小学校
奈良県大和郡市立大幡中学校
福島県福島市西松西交感クラブ
徳島県津田新校地区自主の災い遭
遇会青少年部津田新防災学習会

◇歴代グランプリ受賞校・団

2003年度 徳島県立路路中学校
06年度 徳島県立津方小学校
07年度 福島県立大崎中学校
08年度 神戸大学防災・社会貢献二
09年度 徳島県立津田新校地区自主の災い遭
10年度 徳島県津田新校地区自主の災い遭
11年度 徳島県津田新校地区自主の災い遭
12年度 岩手県宮古市立宮古小学校
13年度 宮城県刈田町立刈田中学校
14年度 札幌市東区出羽区立津田小学校

三國県立北星高校
京都府立東海高校マネジメントクラス
愛媛県立松山高等学校KU18s B08
静岡県立富士特別支援学校高等部B課程

＜フロンティア賞＞
千葉県船橋市立宮本小学校4年生
横浜市立南吉田小学校
北海道札幌市立松園中学校
栃木県立矢板立校農業経営科農業技術
鹿取県立大野防壁1.a.b.

15年度	愛知県平田市立竜崎小学校
16年度	高知県立須崎高校
17年度	徳島県阿南市立津方小学校
18年度	香川県四万十町立栗津中学校
19年度	関西大社会安全学部近畿研
20年度	宮城県立支援学校友川園寺
21年度	和歌山県立和歌山商業高校
22年度	和歌山県立熊野高校 Kumanoサポーターズリー
23年度	岩手県大槌町立吉里吉里中
24年度	高知県高岡市立玉島小

選考委員

委員長	河田 恵昭	(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 人と防災未来センター長
副委員長	唐 津 肇	兵庫県危機管理部長
副委員長	木 戸 哲	(株)毎日新聞社大阪本社編集局長
委員	後藤 隆昭	内閣府政策統括官(防災担当)付参事官(普及啓発・連携担当)
委員	島村 秀明	独立行政法人都市再生機構西日本支社災害対応支援室長
委員	鈴木あかね	兵庫県立舞子高等学校環境防災科 科長
委員	中園 和貴	文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課 課長

(五十音順)

応募校・団体のご紹介

たくさんのご応募、ありがとうございます！来年度のチャレンジをお待ちしています。

都道府県	学校・団体名
北海道	北海道雨竜高等養護学校
青森県	青森市立東中学校
宮城県	登米市立津山中学校
宮城県	大崎市立古川南中学校
宮城県	宮城県宮城野高等学校
埼玉県	大宮国際中等教育学校
千葉県	浦安市立美浜南小学校 4年生一同
千葉県	長生村立長生中学校
東京都	調布市立調布中学校
東京都	東京都立両国高等学校 SYL
富山県	入善町立入善中学校
福井県	福井市至民中学校
長野県	青木村立青木中学校
岐阜県	中津川市立蛭川小学校
岐阜県	中津川市立阿木中学校
岐阜県	岐阜県立岐山高等学校
岐阜県	わくわく防災ジュニアクラブ岐阜可児
静岡県	静岡県立島田商業高等学校 放送部
静岡県	ここよ！避難所プロジェクト(静岡県立榛原高等学校)
愛知県	飛島村立飛島学園 9年生(中学3年生)
愛知県	愛知工業大学学生防災研究会 学防ラボ 高校の部 MDPT
滋賀県	滋賀県立八日市南高校 地域支援活動部
滋賀県	なんぴっ子防災通学合宿
京都府	京都市立西総合支援学校
京都府	京都府立南山城支援学校
大阪府	茨木市立彩都西中学校
大阪府	貝塚市立二色学園
大阪府	GMAT 松原市立松原第五中学校
大阪府	能勢町立能勢ささゆり学園
大阪府	大阪府立園芸高等学校 農産加工班 災害備蓄食G

都道府県	学校・団体名
大阪府	大阪教育大学附属高等学校 平野校舎
大阪府	三国丘高校 SGH9班
大阪府	大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程
大阪府	日本防災普及協会
兵庫県	豊岡市立神美小学校
兵庫県	兵庫県立姫路商業高等学校 地域創生部
兵庫県	明石高専防災団 D-PRO135°
兵庫県	関西学院高等部 ピーススタディ・アドバンスド
兵庫県	兵庫県立西脇工業高等学校
兵庫県	兵庫県立和田山高等学校 ボランティア部
兵庫県	学校法人七松学園 認定こども園七松幼稚園
兵庫県	TEAM-3A
島根県	島根県立盲学校寄宿舎
広島県	府中町立府中央小学校
広島県	坂町立坂小学校
広島県	坂町立小屋浦小学校
広島県	呉市両城中学校
広島県	広島県立総合技術高等学校 人間福祉科
徳島県	徳島県立阿南光高等学校
徳島県	徳島県立池田高等学校定時制課程、「池定・地域まもり隊」
徳島県	子どもプロジェクト1・2・3
愛媛県	済美高校 家庭クラブ
高知県	土佐市立蓮池小学校
高知県	太平洋学園高等学校
高知県	Différent 高知県立国際高等学校
大分県	大分県立情報科学高等学校
大分県	大分県立佐伯鶴城高等学校 防災班
宮崎県	西米良村立村所小学校
宮崎県	宮崎県立日向ひまわり支援学校

震災の教訓を
ともに未来に繋ぐ



防災メッセージ
はばかん

阪神・淡路大震災30年